

令和元年度第 2 回大分県中部地域医療構想調整会議

厚労省の公表に対して
「コスモス病院の地域での役割と使命」臼杵市医師会立コスモス病院
院長 下田勝広令和2年1月31日（金）
大分県医師会館6階 研修室Ⅱ

地域包括ケアシステムの構築に向けて早くから行政、医師会と密接に連携を取りながら先進的に取り組んでいる地域医療支援病院である臼杵市医師会立コスモス病院に対して厚労省が急性期という限られた視点から一部のデータを使い病院の機能を評価し再編、統合の検討が必要な病院として公表したことに対して大変驚くとともに憤りを感じる。

今回、中部地域医療構想調整会議で発言する機会をいただき感謝するとともにこれを機に具体的な調整が進むことを期待する。

1

「再編・統合」が必要な病院

- ⇒地域から病院自体が無くなるのではないか？
- ⇒実績も少なく、ひいては医療の質も劣るのでは？
- ⇒経営状態が悪い病院？
- ⇒民間病院などは評価が全くされておらず公表もされない状況の中での一方的な名指し

「評価」の大きな偏り

- ⇒地域での役割も考慮されず高度急性期、急性期機能のみで評価
- ⇒中でも急性心筋梗塞、急性期の脳卒中、癌の手術など高度急性期医療に関連する評価
- ⇒誤った実績評価、中部医療圏での切り捨て

- 地域の地理的特徴や人口動態、疾病構造の変化に対応した医療を目指しているか？
- 地域で提供すべき医療に見合った病床機能、病床数へ迅速にシフトしているか？
- 地域医療支援病院として地域包括ケアシステムの構築に寄与しているか？
- 臼杵市のみならず津久見市を包括した臼津医療圏として将来像が描けているのか？

2

地域医療支援病院としての役割

臼杵市
人口 約3万7千人
高齢化率 38%

- ・ 二次救急医療機関
- ・ へき地医療拠点病院
- ・ 災害拠点病院
(DMAT/大規模災害訓練)

地域包括ケア体制の拠点
— 地域医療支援病院 —



中部医療圏	
大分市	(約48万)
由布市	(約3.4万)
臼杵市	(約3.7万)
津久見市	(約1.7万)

地域医療構想

医療費削減、資源の有効活用

⇒ 医療圏毎に担う医療を機能分化

⇒ 地域医療調整会議

<公的医療機関等2025プラン>

何をどのように調整すべきなのか？

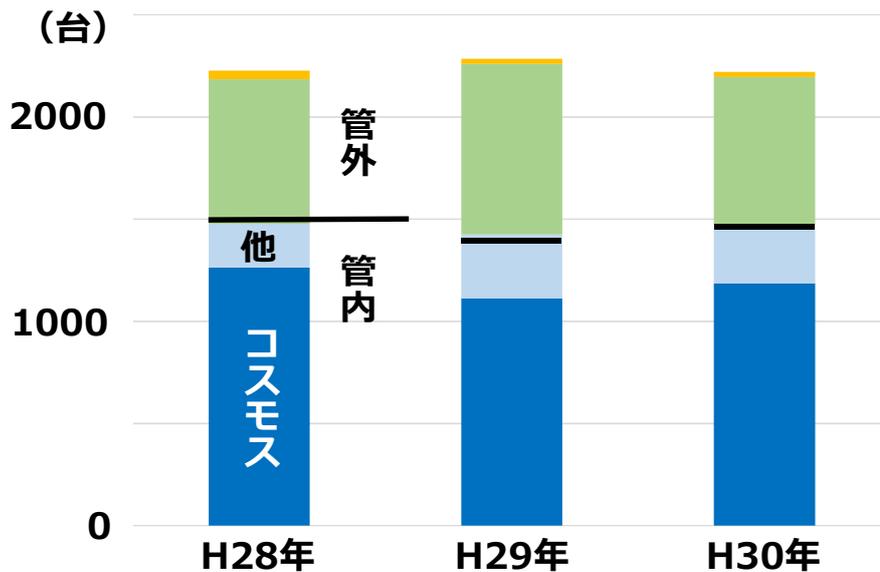
- ・ 高度急性期病床 (7 : 1) の再評価
- ・ 急性期病床から回復期病床への移行促進 (厚労省の公表)

臼杵市医師会立コスモス病院が 地域で担わなければならない医療

<地域の特性と病床機能>

- ・ 高度急性期
設備、マンパワー、ニーズから市外 (大分市) の医療機関に搬送
(特に5疾病5事業の中でも急性期の心疾患、脳卒中、癌)
- ・ 急性期
5疾病5事業の中では救急医療が主体
 1. 高齢者の慢性疾患 (心、肺、腎、糖尿病など) の急性増悪
 2. 高齢者の転倒による4大骨折
 3. 標準的な良性消化器外科手術* これらの疾患に対しては積極的に対応できる地域医療体制へ
- ・ 回復期 (地域包括ケア、回復期リハ)
 1. 地域医療支援病院として地域からの受け入れ (Subacute)
 2. 高度急性期病院からの転院受け入れ
 3. 自院急性期病棟からの転棟 (Postacute)
- ・ 慢性期

救急搬送件数（臼杵消防）



コスモス病院受け入れ

- ・ 1100～1200台/年、地域全体の約50%、管内搬送の約80%
（搬送患者の約70%、約800人/年が急性期病棟入院）

5

救急車数/急性期病床 —急性期病床の機能—

医療機関施設名	救急車数/急性期病床
大分県済生会日田病院	11.2
臼杵市医師会立コスモス病院	10.8
新別府病院	10.5
大分岡病院	10.0
大分県厚生連鶴見病院	9.9
中津市立中津市民病院	9.1
竹田医師会病院	9.1
宇佐高田医師会病院	8.8
国東市民病院	8.2
アルメイダ病院	6.1
大分赤十字病院	5.7
豊後大野市民病院	5.6
杵築市立山香病院	5.2
大分県立病院	5.1
別府医療センター	4.9
大分医療センター	4.0
南海医療センター	3.8
大分大学医学部附属病院	2.7

急性期病床の平均在院日数

主要診断群（MDC）分類データとDPCデータより抜粋

医療機関施設名	急性期平均在院日数
中津市立中津市民病院	9.8
臼杵市医師会立コスモス病院	10.3
大分県立病院	12.0
国東市民病院	12.1
大分赤十字病院	12.3
豊後大野市民病院	12.9
大分県厚生連鶴見病院	13.0
新別府病院	13.1
大分市医師会立アルメイダ病院	13.1
別府医療センター	13.5
宇佐高田医師会病院	13.9
大分岡病院	14.2
杵築市立山香病院	14.5
大分県済生会日田病院	14.5
竹田医師会病院	15.1
大分大学医学部附属病院	15.2
大分医療センター	15.4
南海医療センター	15.4

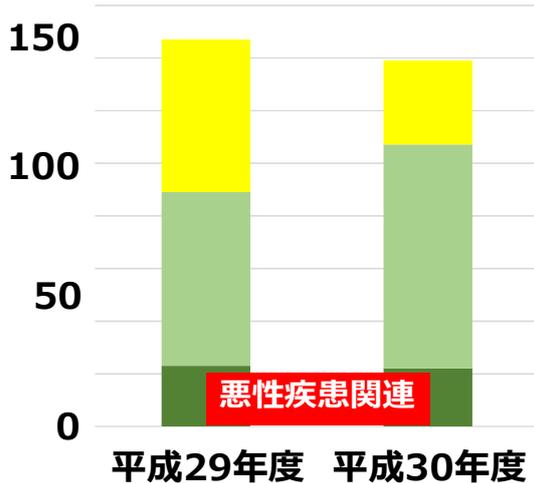
急性期病床を救急患者主体で効率よく活用している

6

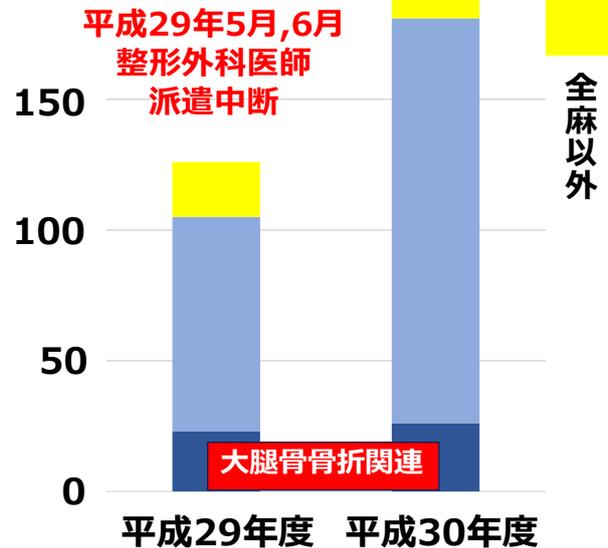
コスモス病院手術統計

年間250件以上の手術 (全麻約200件)
 大腿骨骨折：20件/年 悪性疾患：20件/年

消化器外科等手術症例数



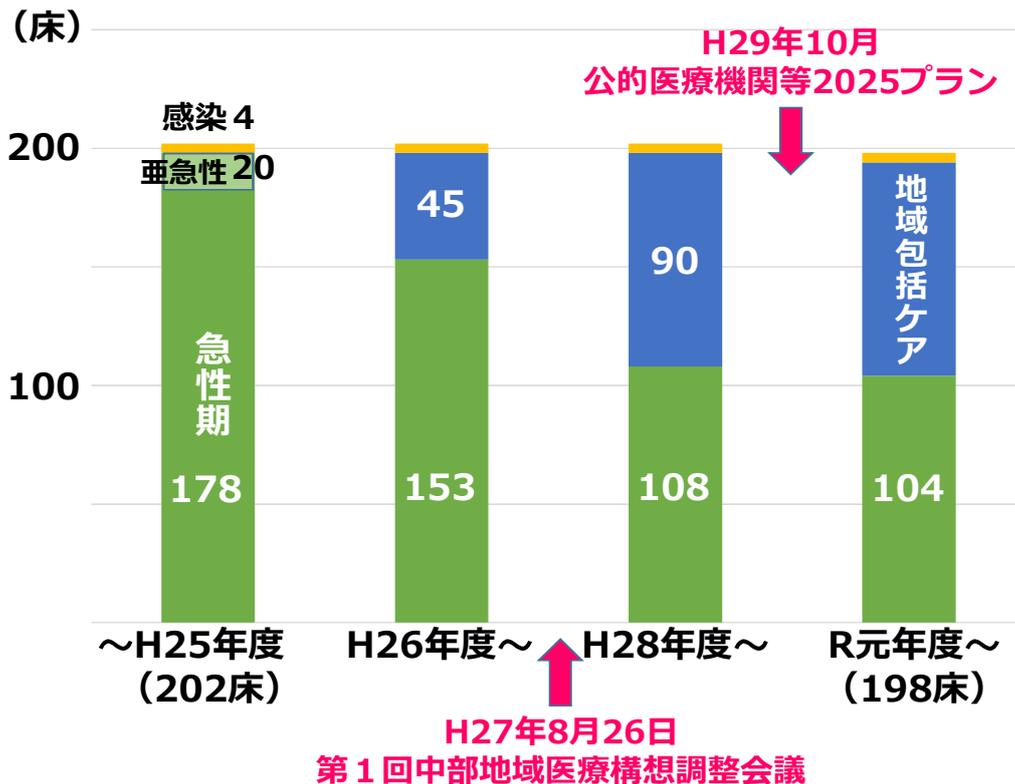
整形外科手術症例数



7

病床機能、病床数の推移

—地域のこれからのニーズをふまえて—



8

厚労省の評価指標

中部医療圏（人口50万～100万人医療圏）の中で急性期（高度急性期を含む）疾患の受け入れが多く、急性期病院として十分機能しているか？



5疾病5事業の観点から評価

★ ★ 今回の評価項目（★ 当院関連）

5疾病
(医療費や医療資源が必要)

- ★ ・ 癌
- ★ ・ 急性心筋梗塞
- ★ ・ 脳卒中（急性）
- ・ 糖尿病
- ・ 精神

5事業
(社会的ニーズの高い医療)

- ★ ・ 救急医療
- ★ ・ 災害医療
- ★ ・ へき地医療
- ★ ・ 周産期医療
- ★ ・ 小児医療

★ ・ 研修/派遣機能

9

コスモス病院の役割と現状

<評価対象項目>

- ・ 癌
- ・ 急性心筋梗塞
- ・ 脳卒中（急性）

中部医療圏の中で高度医療、専門医療は医療資源が集中する大分市の医療機関へ

★ ・ 救急医療

医療資源が豊富な大分市に隣接する地域の急性期病院としての役割は救急患者さんに対する初期対応（高齢者の慢性疾患急性憎悪や骨折）

* 救急医療に対する評価や急性期病床の使用状況
⇒ 評価方法を再検討

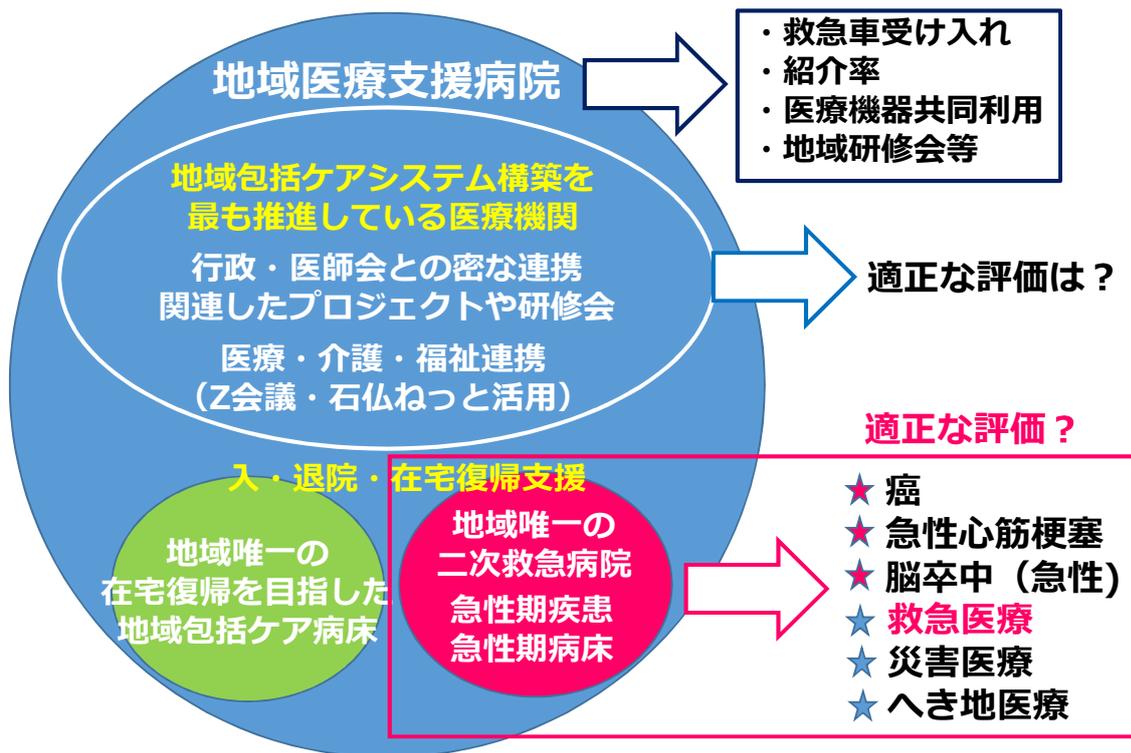
★ ・ 災害医療

* 災害拠点病院として急性期病床、救急体制の維持は必須

★ ・ へき地医療

10

地域医療支援病院とし地域包括ケアシステム構築における役割と実績の評価



11

今回の地域医療構想に対する課題提起

厚労省が公表した特定の統計資料のみからではなく
県主導で地域の現状、将来をふまえての医療体制作り

1. 中部医療圏、大分市に隣接する地域の地域医療支援病院の急性期として何が重要か？
5疾病5事業の中で救急医療（特に初期対応）
⇒救急医療の評価指標
⇒急性期病床使用の適正な評価
2. 自動車で20分以内の類似機能病院？
3. 地域での役割や取り組みの評価
行政と連携した地域包括ケア体制のモデル地区
災害拠点病院としての役割（東南海地震津波の県南拠点）
これまでの病床機能分化の取り組み
4. 将来的な臼津地域の医療体制

12